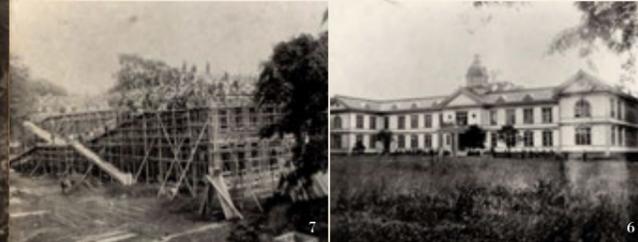


挑戦の140年

SCENE-11

1899-1909

「北八条キャンパスへ移転」



1. 札幌農学校所属の農場の事務所 (1900年ころ、大学文書館蔵)
農学校事務所、後に大学本部となる
2. 農芸化学教室竣工記念 (1903年、大学文書館蔵)
3. 札幌農学校移転新築校舎完成予想図 (1901年、大学文書館蔵)
大講堂の位置に実際には水産学教室が建つ
4. 中條精一郎が作成した農学教室設計図面 (大学文書館蔵)
5. 有島武郎ら第19期卒業生が新校舎予定地に記念植樹 (1901年、大学文書館蔵)
6. 竣工した農学教室 (1901年、大学文書館蔵)
7. 動植物学教室の上棟式 (1901年、大学文書館蔵)
8. 左は図書館の読書室と書庫、右奥は昆虫学・養蚕学教室 (1903年ころ、大学文書館蔵)
9. 左から水産学教室、植物学教室、動植物学教室 (1908年、大学文書館蔵)
10. 競馬場だった札幌農学校移転地 (1878年、大学文書館蔵)
現在の農学部付近



Hokkaido University HISTORY 1899-1909	
1899年	2月 - 北8条キャンパスへの移転決定 6月 - 北8条キャンパス新校舎新築工事起工式
1901年	1月 - 第19期生による新校舎予定地記念植樹 6月 - 農学教室新築 11月 - 動植物学教室新築 12月 - 農業経済学及農政学教室、昆虫学及養蚕学教室新築
1902年	12月 - 植物学教室、農芸化学教室、図書館読書室・書庫新築
1903年	7月 - 新校舎落成、北8条キャンパスに移転 11月 - 寄宿舎 (後に恵迪寮と命名) 新築 12月 - 雨天体操場新築
1904年	3月 - 第一農場移転開始 10月 - 正門・中門・門衛所新築 この年までに北1条キャンパス建物の取り壊し、売却を進める
1906年	11月 - 演武場を札幌区に売却 (現在の札幌市時計台) 12月 - 水産学教室新築
1909年	9月 - 第二農場建物移築工事着工

大学文書館 だいがくぶんしょかん Hokkaido University Archives
北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。

北一条キャンパス旧建物のセカンドライフ

一方、北一条キャンパスの農学校旧建物について、公文書はキャンパス移転が完了した後、一九〇四年までに取り壊し、売却を行なったと記録している。

一九三〇年十一月十九日に恵迪寮開講社で、佐藤昌介北海道帝国大学総長が「僕の寮生活の回顧」と題して講演を行った。その中で北一条キャンパスの農学校旧建物のセカ

「時計台の建物は市の方に払い下げたものでそのやったりして、この分ではネダがぬけて持たない

ンドライフに触れている。一九三〇年現在、生徒寄宿舎は「青年寄宿舎の裏手の所にある小さな三軒長屋」であるとあり、北五条西九丁目付近に存在したことになる。化学講堂は「本願寺の女学校が用ひてゐる」と述べているので、北十六条東九丁目北海高等女学校(現大谷中学校・高等学校)へ移築がなされたのだろう。「食堂は将校集会所となつて」とあるから、一階が食堂で二階が復習講堂であったこの建物は、現在の月寒公園の場所にあった歩兵第二十五連隊の施設として移築・転用がなされたと推測できる。予科講堂(北講堂)は「方向を変へて、今の創成病院になつてゐる」(北一条西二丁目)、図書館閲覧室は「その東南の小さな建物」と述べている。佐藤の記憶が正しければ、北一条キャンパスの農学校旧建物は、建築から四、五十年を経た一九三〇年においても有意義なセカンドライフを営んでいたと言える。現在はこれらの建物も役割を終えて姿を消した。旧札幌農学校演武場の建物のみが、札幌市時計台として札幌中心部のビルの谷間に往時のままの鐘の音を響かせている。

北八条キャンパスへの移転

札幌農学校が建物新築の要望を重ねた結果、文部省は一八九九年度予算でこれを認めた。キャンパスの移転先は農学校所属の第一農場の敷地であった。新校舎予定地は、第一農場敷地のやや西寄りに奥まった位置、北八条西六丁目付近にあつた。ちょうど札幌農学校が開校した一八七六年、お雇い外国人エドヴィン・ダンが競馬場を建設した場所

頃は今の梁はなかった。そして体操教練に使ひ、その上でドンドン足踏をだらうと思はれたのだが、修繕をして、用ひられてゐる様である。」(佐藤昌介)

校舎と共に学生の寄宿舎も北八条キャンパスに移り、一九〇三年十一月に新築した。場所は新校舎から二、三百メートル離れたキャンパス内の辺地である。この寄宿舎は後に「恵迪寮」と命名される。恵迪寮はその後、

北八条キャンパスへの移転

札幌農学校が建物新築の要望を重ねた結果、文部省は一八九九年度予算でこれを認めた。キャンパスの移転先は農学校所属の第一農場の敷地であった。新校舎予定地は、第一農場敷地のやや西寄りに奥まった位置、北八条西六丁目付近にあつた。ちょうど札幌農学校が開校した一八七六年、お雇い外国人エドヴィン・ダンが競馬場を建設した場所

北八条キャンパスの新校舎

新校舎は正面に農学教室、向かって左側に動植物学教室・水産学教室・農業経済学及農政学教室の三棟、右側に農芸化学教室・図書館・昆虫学及養蚕学教室の三棟が並び、真ん中が前庭となる「コ」の字形の配置であつた。設計は文部技師の中條精一郎(小説家宮本百合子の父)があつた。新校舎は一九〇三年七月に落成し(水産学教室は一九〇六年)、北一条から北八条へのキャンパス移転を実施した。以来、大学昇格後も現在に至るまで、北海道大学はこの地に根付いている。

キャンパス内外からの推力

一八七六年に開校した札幌農学校の生徒数は、第一期生が卒業する一八八一年には、本科の学生四八名、本科へ進学するための準備課程である予備科(予科)の生徒四一名の計八九名となつた。教員は本科・予科合わせて、外国人教師四名、日本人教師五名の計九名であつた。開校から一九年目の一八九五年には、本科学生七二名、予科生徒一〇七名、計一七九名の学生・生徒が在籍するに至つた。教員も教授六名、助教授九名、嘱託講師八名の計二三名に増加し、人員上の学校規模は倍以上に及んでいた。この間、建物増設は解剖室や書籍館(図書館)事務室、体操場の新築、焼失した北講堂の再建などに止まり、既設建物の老朽化も進んでいた。

比較的、市街地から近い第一農場敷地には、第一農場の施設が建ち並び、やや奥に第二農場施設も望むことができた。従つて、北八条キャンパスは正門を入ってから、左右に第一農場や第二農場の旧施設をしばらく眺めて進み、それらが途絶えた先に農学校校舎が現われるという配置であつた。ただし実際には、第一農場は一九〇四年に、第二農場は一九〇九年に移転を開始し、農場施設は見られなくなる。キャンパス移転の際に設置した正門と南門からそれぞれキャンパス内を進む道の交差する場所にあつた農場事務所建物は、札幌農学校事務所に転用することとなり、その後、一九六六年まで大学本部として使用し続けた。